心をみつめる

第その二十六

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

どれだけ世の中が便利になっても、血の通った私たちにしかできないことを大切に。

最近我が家で、スマートスピーカーを導入した。手のひらほどの大きさの機械に「明日の天気は？」とか「音楽かけて」と話しかけるだけで、思い通りのことをしてくれる。現代は「IOT（アイ・オー・ティー）時代」というらしい。

住宅・車・家電がインターネットに接続され、スマホを操作するだけで、出先から自宅のエアコンをつけたり、玄関のドアの鍵を開けられたり、非常に便利な代物である。

一昔前は、IT時代と言われ、クリックするだけで世界中の情報を即座に知ることができたが、日常生活の中に溶け込み、私たちの身の回りも変化し続けている。

ある日でテレビを見ていると、目を疑うようなニュースが流れていた。映像には、関東のとある寺院の本堂で行われている法事で、檀信徒と共にお経を読む僧侶。その横には、なんと木魚を叩く人型のロボットがいた。しかも、僧侶と同じ法衣を着ている。これこそ眉唾物である。

生活が便利になることは誠にいいことだが、お寺での法事にロボットが加わることについては、個人的には承服しかねる。緊張してテンポを乱すことも、手元を狂わすこともないロボットではあるが、結局は血の通っていない無機物である。

仏教が日本に伝わり1000年以上、脈々とその教えを受け継いできた寺院だからこそ、進化し続ける技術の進歩からは、対極にいなくてはいけないのではないかと思う。もちろん実生活の中では、スマホやパソコンなど、色々な電化製品を使用している。本堂で法事を行う時には檀信徒に声が届きやすいように、大型のスピーカーも導入している。しかしテレビで観た寺院のように、木魚を叩くロボットを導入することは到底考えられない。

遺族と共に故人を偲び、故人との記憶を巡る、それは血の通った私たちにしかできないことである。しかし、たまには読経中に木魚を打つ手元が狂ってしまうこともあるが、それは耳を塞いでいただきたいところである。

日蓮宗 海宝山 妙乗寺副住職
渡部 公輔 上人

日蓮宗 海宝山 妙乗寺
北九州市小倉北区大門 2-3-31
(093)-561-5673